

7 嵐山郷

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、活動等を通して利用者の社会参加を促進した。

また、短期入所の受入れやグループホームの運営、療育拠点施設事業、障害者医科・歯科診療等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況

(人)

施設種別	性別	定員	前年度末 (R4. 3. 31)	入 所	退 所	年度末 (R5. 3. 31)
福祉型障害児入所施設 (障害者支援施設併設)	男	—	9	4	3	10
	女	—	3	1	0	4
	計	25	12	5	3	14
障害者支援施設	男	—	182	9	5	186
	女	—	133	4	7	130
	計	329	315	13	12	316
医療型障害児入所施設 療養介護事業所	男	—	24	4	2	26
	女	—	29	2	2	29
	計	60	53	6	4	55
計	男	—	215	17	10	222
	女	—	165	7	9	163
	計	414	380	24	19	385

(2) 退所の理由

(人)

施設種別	区分	地域 移行	死亡 (病气)	その他	計
福祉型障害児入所施設		3	0	—	3
障害者支援施設		0	6	4 (入院) 2 (療養介護事業所移行)	12
医療型障害児入所施設 療養介護事業所		0	2	2 (入院)	4
計		3	8	8	19

(3) 障害支援区分 (区分6及び5の割合) ※児童を除く

令和5年3月31日現在(人)

	区分	男	女	計	割合
障害者支援施設	6	146	121	267	84.5%
	5	35	9	44	13.9%
	計	181	130	311	98.4%
療養介護事業所	6	23	27	50	100%
	5	0	0	0	0%
	計	23	27	50	100%

(4) 通学状況

令和5年3月31日現在(人)

学 校 名	福祉型障害児入所施設	医療型障害児入所施設	計
東松山特別支援学校	12	—	12
熊谷特別支援学校	—	5	5

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況 (人)

科目	健康支援活動 (音楽・レク・アロマ等)	リハ支援	造形 (陶芸・タイルモザイク・絵画等)	手工芸	受託加工Ⅰ	受託加工Ⅱ	計
延べ人数	630	976	1,491	394	9,271	1,188	13,950

(2) 健康管理の状況

ア 外部医療機関への受診状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。外部通院支援を次のとおり行った。

(件・日)

科目 区分	内科・呼吸器科	外科	整形外科	皮膚科	眼科	婦人科	泌尿器科	脳外科	乳腺外科	精神科	耳鼻科	小児科	消化器外科	計
	入院 件数	15	12	3	0	0	0	0	4	0	0	1	0	
入院 日数	1,164	170	16	0	0	0	0	148	0	0	3	0	20	1,521
通院件数	41	20	14	13	3	3	21	13	6	17	10	2	6	169

イ 看護師の巡回

生活援護部を中心に看護師による寮の巡回を行い、利用者の健康状態把握に努めた。

(3) 短期入所

在宅の障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
福祉型障害児入所施設	8件	305日
障害者支援施設	133件	1,645日
医療型障害児入所施設 療養介護事業所	17件	308日
計	158件	2,258日

※日中一時支援事業(5件 延べ5日)、一時保護(10件 延べ444日)含む。

(4) グループホームの運営

令和5年3月31日現在(人)

名 称	定 員	利用人数
嵐山ハイム	6	3
やまゆりハイム	16	14
計	22	17

(5) 療育拠点施設事業

研修会および連絡調整会議を実施して県内の療育等支援事業所に対する支援を行った。

事業区分	開催月及び実施回数
研修会	2回(9月・12月)
連絡調整会議	2回(9月・12月)
療育に関する助言指導	通年: 21件

(6) 医科・歯科診療

ア 医科

障害者一般外来診療を行い、在宅障害児(者)の支援を行った。(人)

診療科目	内科 (小児科)	精神科	耳鼻科	皮膚科	眼科	婦人科	整形外科	計
一般外来延べ人数	308	15	10	16	31	18	27	425
施設内延べ人数	16,987	1,163	155	302	305	167	703	19,782
計	17,295	1,178	165	318	336	185	730	20,207

※ 医療型障害児入所施設、療養介護事業所の診療回数を除く。

イ 歯科

常勤の歯科医師を中心として、歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児(者)の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児(者)の治療及び口腔機能の改善に努めた。(人・回)

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	実人数		320	380	344	273	217	285	314	334	270	285	319	346
延べ人数		396	463	492	355	270	382	414	439	341	325	365	467	4,709
内訳	一般外来延べ人数	186	200	214	174	150	193	209	207	174	158	202	271	2,338
	施設内延べ人数	210	263	278	181	120	189	205	232	167	167	163	196	2,371
全身麻酔治療回数		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	4
鎮静法治療回数		25	37	40	43	31	42	52	54	43	49	59	66	541
訪問診療・口腔衛生指導		24	40	38	35	6	33	30	39	29	46	39	36	395

(7) 保育所

認可保育所として、乳幼児の多様な保育ニーズに対応した。また、保護者との連携を密にし、園児が健康で心豊かに育ち、それぞれの個性が十分発揮できるよう保育に努めた。

令和5年3月31日現在(人)

年齢区分 性別	定員	現 員							計
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
男	—	2	3	6	5	4	4	24	
女	—	1	0	1	4	1	6	13	
計	45	3	3	7	9	5	10	37	

(8) 主な行事の実施状況 ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

年月	主な行事内容
令和4. 7	納涼花火大会
9	還暦・成人の祝い
10	嵐山郷まつり
12	クリスマスコンサート・年末お楽しみ会

(9) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主な内容
563人	理美容、環境整備、衣類補修

(10) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区分	実人数	延べ日数
保育士実習	56人	646日
社会福祉士実習	1人	23日
歯科衛生士実習	28人	28日
計	85人	697日

(11) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
14人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや保護者との懇談会・アンケート、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び保護者の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 工事の実施

- ア 独身宿舎B3棟内部改修工事（2階、3階）
- イ 診療棟玄関ポーチ新築工事
- ウ 厚生センターゲストハウス内火災報知設備改修工事
- エ 管理棟内非常用放送設備修理
- オ 3寮、4寮空調設備改修工事

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと、年2回総合防災訓練を行った。また、利用者の障害特性に配慮した消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症に利用者、及び職員が罹患し、年間通して施設内で感染が確認された。

e-MATによるオンライン指導、COVMATによる現地指導などを受け、感染の収束を図るとともに、連絡会や会議等の機会を利用して職員間で情報共有し感染予防対策を講じた。

イ 嵐山郷における事業継続計画（BCP）「①自然災害発生時における事業計画」、「②新型コロナウイルス発生時における事業継続計画」の改訂を行った。

ウ 夜間の勤務状況等のチェック

夜間における防犯及び事故防止を徹底するため、管理職が夜間の寮棟を不定期に巡回し、危険箇所及び業務遂行のチェック・指導を実施した。

エ 「気づきの力」の充実

ヒヤリハット報告を推進し、寮・部単位及び安全管理委員会で分析を行った。また、寮会議や日々の業務引き継ぎ等を通じて情報共有を行い、早期対応に努めた。

オ 職員との面談と教育

各部の管理者が契約職員を含む全職員との個別面談を実施した。

6 職員の育成

各研修の参加・開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した。

(1) 外部研修

オンライン形式の研修を中心に参加した。また、本部主催研修にも参加した。

(2) 外部向け研修

埼玉県から事業指定を受け、「強度行動障害支援者養成研修（基礎）」・「強度行動障害支援者養成研修（実践）」を開催した。昨年度中止となった「摂食嚥下リハビリテーション（基礎）研修」は、定員数の制限や開催時間の縮小等の感染対策を行い、開催した。

(3) 施設内研修

「新任・転入職員ガイダンス」「初任者研修」「防護服研修」「虐待防止・権利擁護研修」「4等級研修」「防犯研修」「腰痛予防研修」を実施した。

8 あすなろ学園

利用者が自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、生産活動等をととして利用者の社会参加を促進した。

1 利用者状況

(1) 利用状況 (人)

性別 \ 区分	定員	前年度末 (R4. 3. 31)	新規利用者	退 所	年度末 (R5. 3. 31)
男	—	28	3	4	27
女	—	18	0	3	15
計	50	46	3	7	42

(2) 退所の理由 (人)

性別 \ 区分	他施設利用	その他	計
男	3	1	4
女	3	0	3
計	6	1	7

(3) 障害支援区分 令和5年3月31日現在(人)

区 分	男	女	計	割 合
6	2	0	2	4.8%
5	6	3	9	21.4%
4	7	4	11	26.2%
3	6	4	10	23.8%
2	1	1	2	4.8%
区分なし	5	3	8	19.0%
計	27	15	42	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況 (人)

	受託作業		自主生産活動		創作活動・陶芸
	第1作業室	第2作業室	農園芸・EM	さをり・手芸	
男	13	14	15	2	15
女	6	9	3	8	6
計	19	23	18	10	21

(2) 施設外活動及び地域貢献事業

北本市役所内で週に1回生産品等を販売、講談社桶川倉庫でのリサイクル分別作業を週1回、近隣の墓地清掃を月2回程度実施し、利用者の社会参加と就労・自立に向けた支援を行った。
(利用者参加延べ人数)

市役所販売	施設外就労 (桶川講談社)	墓地清掃
98人	153人	96人

(3) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに健康診断・歯科検診及び嘱託医師による定期的な健康相談を実施し、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。

回数	延べ人数
健康相談 11回	441人
健康診断 1回	46人
合 計	487人

(4) 相談支援事業

障害者及び障害児相談支援事業を実施し、在宅の障害者（児）を支援した。

(障害者相談支援事業)

(件)

訪 問	外 来	電 話	計
351	125	637	1,113

(5) 主な行事の実施状況※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

年 月	主 な 行 事 内 容
令和4. 4	・あすなる会（家族会）との連絡会
5	・小集団外出（東武動物公園）
6	・小集団外出（こども動物自然公園・むさしの村） ・避難訓練（火災想定） ・イベント給食 ・茶話会
7	・フードパントリー会場提供 ・小集団外出（歴史と民族の博物館） ・西部公民館サマーフェスタ（製品販売） ・茶話会
8	・小集団外出（さいたま造幣局・鉄道博物館） ・防犯研修
9	・小集団外出（川越散策・鉄道博物館） ・利用者健康診断 ・ふれあいピック ・総合防災訓練 ・イベント給食
10	・レクリエーション大会 ・あすなる会との連絡会 ・小集団外出（むさしの村） ・事業団設立50周年記念特別表彰式 ・さをり織り体験会
11	・小集団外出（ムーミンバレーパーク） ・避難訓練（地震想定）
12	・小集団外出（さいたま水族館） ・作品展示会（北本市役所市民ホール） ・年末お楽しみ会 ・仕事納めの会 ・イベント給食 ・茶話会
令和5. 1	・仕事始めの会 ・小集団外出（所沢航空発祥記念館） ・茶話会
2	・さをり織り体験会
3	・中丸公民館まつり（製品販売） ・北本みどりとまつり（製品販売） ・あすなる会との連絡会 ・イベント給食 ・茶話会

(6) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主 な 内 容
253人	受託作業やさをり織り等自主生産活動、市役所販売など

(7) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	27人	312日
介護体験実習	3人	15日
計	30人	327日

(8) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
51人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや保護者との連絡会、利用者による当事者活動、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通じて、利用者及び保護者の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと年1回総合防災訓練を行うとともに、利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 警察署員の協力のもと、不審者対応等の防犯訓練を実施し、緊急時に対応できる体制づくりと職員の防犯意識の向上に努めた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

事業継続計画（BCP）を作成し、連絡会や会議等で職員へ周知、感染予防対策を講じた。

イ 勤務状況のチェック

園長が現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

連絡会等において情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。また、危機管理委員会を中心に事故報告及びヒヤリハット報告を分析し、事故防止に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 救急法や感染症対策研修、権利擁護・虐待防止研修等の施設内研修を実施した。また、事例検討会の実施や日常的にOJTを推進することで、職員の資質や支援の向上に努めた。

(2) 職員の専門性を高めるため、経験年数等に応じた研修計画のもと、外部機関が主催するオンラインを中心とした研修に積極的に参加した。連絡会や会議等にて研修報告を行うことで、職員間での情報の共有を図った。

9 皆光園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、機能訓練等の日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。

また、短期入所の受入れやデイサービスの運営、聴能訓練、障害者歯科診療等により在宅障害者児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

区分 性別	定員	前年度末 (R4.3.31)	入所	退所	年度末 (R5.3.31)
男	—	22	4	3	23
女	—	23	2	1	24
計	50	45	6	4	47

(2) 退所の理由 (人)

区分 性別	死亡 (病気)	その他	計
男	1 (病気)	2 (地域移行・長期入院)	3
女	1 (病気)	0	1
計	2	2	4

(3) 入所者の障害の状況

ア 疾病の状況

令和5年3月31日現在 (人)

疾病	男	女	計	割合
脳性小児マヒ	9	16	25	53.2%
脳血管障害	6	0	6	12.8%
脊髄損傷等	2	1	3	6.4%
進行性筋萎縮症	0	0	0	0.0%
その他	6	7	13	27.6%
計	23	24	47	100.0%

イ 障害支援区分の状況

令和5年3月31日現在 (人)

区分	男	女	計	割合
6	18	21	39	83.0%
5	4	3	7	14.9%
4	1	0	1	2.1%
計	23	24	47	100.0%

ウ 身体障害の等級

令和5年3月31日現在 (人)

等級	男	女	計	割合
1級	14	16	30	63.8%
2級	7	7	14	29.8%
3級	0	0	0	0.0%
5級	0	1	1	2.1%
なし	2	0	2	4.3%
計	23	24	47	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

また、創作活動、個別活動、健康支援や外出行事等を通じて日中支援の充実を図った。

(1) 日中支援の状況 (人)

種目 性別	俳句	七宝焼	民謡	カラ オケ	書道	童謡	花の箱	音楽 活動	延人員	実人員
男	1	1	1	4	1	7	1	8	24	11
女	2	4	5	8	2	7	3	10	41	17
計	3	5	6	12	3	14	4	18	65	28

(2) 機能訓練の状況

利用者の身体機能の維持・向上のために機能訓練を実施した。

対 象	機能訓練(実人数)
入所利用者	41人

(3) 短期入所

在宅の障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	10件	399日

(4) デイサービス

地域の障害者に対して、ニーズの高い機能訓練を中心とした支援を実施した。

(人)

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約人数	19	19	19	19	19	18	17	17	18	18	18	18	219
利用延人数	85	88	89	96	76	77	86	84	87	73	85	84	1,010

(5) 聴能訓練の状況

ア 聴能訓練

就学前の難聴児に対して、日常生活の適応に必要な聴能訓練を実施するとともに、地域の学校等からの依頼に応じ聴力検査、予後指導を実施した。

訓練児童数	訓練延べ人数
27人	1,641人

イ 聴覚障害児支援中核機能モデル事業

埼玉県から事業を受託し、医療、保健、福祉及び教育の各機関の連携強化を図るとともに、難聴児と保護者に対する相談支援を実施した。

電話メール等相談	出張相談	巡回相談
55件	1件	18件

(6) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。

(人)

科目 区分	内科	外科	整形 外科	眼科	耳鼻科	泌尿 器科	心療 内科	その他	計
通 院	1,158	50	151	14	4	113	199	329	2,018
内 訳	嘱託医	1,111	0	140	0	0	199	0	1,450
	その他	47	50	11	14	4	113	329	568
入 院	7	4	1	0	0	2	0	1	15

(7) 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

また、利用者の摂食機能の低下に適切に対応するため、専門医による助言・指導を実施した。(人・回)

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	実人数		292	332	377	322	286	290	330	288	288	297	257	289
延べ人数		419	416	471	383	360	379	387	369	361	382	328	364	4,619
内訳	外来	389	399	444	365	340	363	363	344	342	358	304	344	4,355
	入所	30	17	27	18	20	16	24	25	19	24	24	20	264
全身麻酔治療回数		7	5	11	7	9	7	6	8	8	8	6	3	85
鎮静法治療回数		56	42	69	51	65	48	50	53	45	47	47	44	617

(8) 主な行事の実施状況※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

年月	主な行事内容
令和4.4	日帰り外出（通年） 園外買物（通年）
6	利用者健康診断
7	園内コンサート・花火・ビンゴ大会
9	花園仮設棟への引っ越し
10	総合防災訓練 聴能野外訓練
11	デイサービス出前・テイクアウトランチ会
12	忘年会 聴能クリスマス会
令和5.1	お正月遊び会
2	聴能節分会
3	離任式 聴能修了式

(9) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主な内容
155人	園内散策、理美容、除草作業

(10) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区分	実人数	延べ日数
社会福祉士実習	1人	8日
保育士実習	5人	56日
言語聴覚士	2人	36日
計	8人	100日

(11) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
49人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや利用者参加の生活委員会、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 施設の整備

花園仮設棟が令和4年9月に竣工し、入所利用者の引っ越しを行った。10月から居住棟部分の解体工事を行い3月末に終了した。また、3月に改築工事監理業務の委託契約を締結した。

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保と安定したサービス提供及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと年1回総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 不審者の侵入対策として、防犯カメラの設置及び警備会社へ直接通報できる携帯型の非常通報装置等を配備し防犯体制の充実を図った。また、警察署員の協力のもと不審者侵入を想定した防犯訓練を実施した。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

事業継続計画（BCP）を作成し、連絡会や会議等で職員へ周知、感染予防対策を講じた。

イ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長の管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況の確認・指導を実施した。

ウ 情報共有と早期の問題点把握

会議や連絡会等における情報交換を密に行うとともに、利用者への聞き取りの内容も活用し、問題点やその兆候の把握に努めた。また、契約職員を含む全職員との個別面談を実施した。

エ 「気づき」の力の醸成と事故防止

ヒヤリハット報告を推進し、支援面や環境面の課題を共有し再発防止策を講じた。また、各棟会議にてロールプレイや危険予知訓練などを実施し事故防止に努めた。

6 職員の育成

(1) 支援研修

施設内研修として、全職員を対象に虐待防止・権利擁護研修を実施した。また、夜間急変時シミュレーション訓練や、障害特性の理解などテーマを決めて研修を実施し支援に活かした。

さらに、外部研修等へはオンラインを利用した研修に参加し、支援者としての資質・技術の向上及び施設内での水平展開に努めた。

(2) 医療研修

看護師を講師とし、転入職員等を対象に薬の知識・与薬及び感染症対策について研修を行った。

10 そうか光生園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、機能訓練等の日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。

また、短期入所の受入れや地域活動支援センターの運営、聴能訓練、相談支援事業、障害者歯科診療等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

区分 性別	定員	前年度末 (R4. 3. 31)	入所	退所	年度末 (R5. 3. 31)
男	—	28	1	4	25
女	—	22	0	0	22
計	50	50	1	4	47

(2) 退所の理由 (人)

区分 性別	死亡(病气)	その他	計
男	1	3 (施設移行・自宅)	4
女	0	0	0
計	1	3	4

(3) 入所者の障害の状況

ア 疾病の状況

令和5年3月31日現在 (人)

区分 疾病	男	女	計	割合
脳性小児マヒ	10	10	20	42.6%
脳血管障害	3	4	7	14.9%
頭部外傷	4	1	5	10.6%
小脳変性症	0	2	2	4.3%
脊髄損傷等	1	0	1	2.1%
その他	7	5	12	25.5%
計	25	22	47	100.0%

イ 障害支援区分の状況

令和5年3月31日現在 (人)

区分	男	女	計	割合
6	21	17	38	80.9%
5	4	5	9	19.1%
4	0	0	0	0.0%
計	25	22	47	100.0%

ウ 身体障害の等級

令和5年3月31日現在 (人)

等級	男	女	計	割合
1級	18	17	35	74.5%
2級	5	4	9	19.1%
3級	2	0	2	4.3%
4級	0	1	1	2.1%
計	25	22	47	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定するとともに、利用者がその人らしい生活と社会活動への参加ができるような支援に努めた。

(1) 日中支援の状況 (人)

種目 性別	オセロ 将棋	ソング	書道	つくる	スポーツ	延人員	実人員
男	6	8	3	3	10	30	17
女	9	12	6	10	9	46	17
計	15	20	9	13	19	76	34

※その他に、生け花等の活動を実施した。(参加者は随時)

(2) 機能訓練の状況

利用者の身体機能の維持・向上のために機能訓練を実施した。

対 象	機能訓練(実人数)
入所利用者	50人

(3) 短期入所

在宅の障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を積極的に受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	113件	372日

(4) 地域活動支援センター

在宅障害者を対象に創作活動、社会適応訓練等の支援を提供した。(人)

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約人数	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	125
利用延人数	40	37	44	42	19	32	23	29	14	28	31	41	380

(5) 聴能訓練の状況

ア 聴能訓練

就学前の難聴児に対して、日常生活の適応に必要な聴能訓練を実施するとともに、地域の学校等からの依頼に応じ聴力検査、予後指導を実施した。

訓練児童数	訓練延べ人数
61人	1,885人

イ 聴覚障害児支援中核機能モデル事業

埼玉県から事業を受託し、医療、保健、福祉及び教育の各機関の連携強化を図るとともに、難聴児と保護者に対する相談支援を実施した。

電話メール等相談	出張相談	巡回相談
298件	2件	29件

(6) 相談支援事業

障害者相談支援事業及び障害児等療育支援事業を実施し、在宅の障害児(者)を支援した。

ア 障害者相談支援事業 (件)

訪 問	外 来	電 話	計
993	71	4,033	5,097

イ 障害児等療育支援事業 (件)

在宅支援訪問療育等指導	在宅支援外来療育等指導	施設支援一般指導	計
185	13	137	335

※他に、障害児発達支援巡回事業を幼稚園対象に、延べ31回実施。

(7) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。(人)

科目		内科	外科	整形外科	眼科	皮膚科	泌尿器科	心療内科	その他	計
区分	通院	2,372	5	93	5	39	66	63	61	2,704
内訳	嘱託医	2,314	0	91	0	0	0	63	0	2,468
	その他	58	5	2	5	39	66	0	61	236
	入院	1	0	0	0	0	3	0	8	12

(8) 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児(者)の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児(者)の治療及び口腔機能の改善に努めた。

また利用者の摂食機能の低下に適切に対応するため、歯科医師による助言・指導を実施した。(人・回)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
区分	実人数	161	152	160	171	180	198	190	251	169	154	183	197	2,166
	延べ人数	180	169	180	190	200	219	209	265	209	173	206	218	2,418
内訳	外来	170	158	174	183	198	209	183	242	206	159	192	210	2,284
	入所	10	11	6	7	2	10	26	23	3	14	14	8	134
	全身麻酔治療回数	2	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	7
	鎮静法治療回数	36	48	54	38	49	58	47	53	51	47	52	68	601

(9) 主な行事の実施状況※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し実施。

年月	主な行事内容
令和4. 4	新規・転入職員交流会、聴能児童ミニ運動会
5	日帰り外出(越谷市場2回)、聴能児童ミニ野外訓練
6	日帰り外出(リサイクルプラザ)、バイキング
7	日帰り外出(キャンベルタウン、川口グリーンセンター、越谷市場)
8	夏のレク大会、オセロ将棋トランプ大会開会式、聴能児童夕涼み会
9	日帰り外出(久伊豆神社、川口グリーンセンター、越谷展望台)
10	事業団表彰、日帰り外出(花田苑、大崎公園)、聴能児童野外訓練
11	日帰り外出(煎餅焼き、リサイクルプラザ)
12	聴能児童クリスマス会、日帰り外出(展望台、リサイクルプラザ)
令和5. 1	聴能児童社会科見学
2	バイキング
3	オセロ将棋トランプ大会閉会式、聴能訓練児修了式

(10) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主な内容
66人	環境美化、理美容等

(11) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

区分	実人数	延べ日数
社会・介護福祉士等実習	41人	390日
言語聴覚士実習	5人	92日
歯科衛生士実習	10人	17日
計	56人	499日

(12) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
121人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや家族との連絡会、利用者満足度調査、食事の嗜好調査、意見箱の設置等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもとに防災訓練を行うとともに、利用者の障害特性を考慮の上、避難誘導訓練、消火訓練、災害伝言ダイヤルを活用した夜間連絡訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 不審者対応等の防犯研修を実施し、職員の防犯意識の向上に努めた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

事業継続計画（BCP）を作成し、連絡会や会議等で職員へ周知、感染予防対策を講じた。断続的に利用者が感染し、その都度体制構築、対応の振り返りは行っている。

イ 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜勤者リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

事故防止を図るため、ヒヤリハット事案の報告と改善に、施設をあげて積極的に取り組んだ。また、園内講師により「気づき」の研修として「KYT 危険予知トレーニング研修」を実施し、事故防止に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長及び副園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施するとともに、虐待防止委員会を設置・開催した。

6 職員の育成

(1) 施設内研修

支援の向上のため、「車いす・装具、看護・介護技術」及び「虐待防止・権利擁護」施設内および外部講師を招き、知識向上を目的に全職員対象に講義を行った。特に「権利擁護・虐待防止」においては、外部講師を招き「傾聴研修」を実施している。

利用者の高齢化への対応については、摂食・嚥下相談の一環として歯科医師による摂食嚥下講習会、歯科衛生士による口腔衛生研修を開催し、専門性の向上を図っている。

危機管理において、感染症予防、ガウンテクニック、リスクマネジメントを実施している。

(2) 施設外研修

埼玉県総合リハビリテーションセンターや埼玉県社会福祉協議会などが主催する動画配信による各テーマ別研修について、各職員の経験年数やスキルに合わせて受講した。「社会資源の活用」「コンプライアンス」「メンタルヘルス」「高次脳機能障害」「口腔ケア」など、現在の施設の現状に合わせた研修内容に適材適所に派遣し、人材育成に努めた。

また日誌ソフトの導入に向け、他施設への見学を実施した。

1 1 あさか向陽園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、生産活動等を通し利用者の社会参加を推進した。

また、短期入所の受入れや障害者歯科診療等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況

(人)

障害福祉サービス種別	定員	性別	前年度末 (R4. 3. 31)	入 所	退 所	年度末 (R5. 3. 31)
生活介護・ 施設入所支援	40	男	28	1	1	28
		女	9	0	0	9
		計	37	1	1	37
就労継続支援 B型	身体障害	男	7	0	1	6
		女	2	0	0	2
		計	9	0	1	8
	知的障害	男	14	0	2	12
		女	5	1	0	6
		計	19	1	2	18
	精神障害	男	0	0	0	0
		女	4	1	1	4
		計	4	1	1	4
	計	男	21	0	3	18
		女	11	2	1	12
		計	32	2	4	30
合計	80	男	49	1	4	46
		女	20	2	1	21
		計	69	3	5	67

(2) 退所の理由

(人)

種別	区分	死亡 (病気)	その他	計
生活介護・施設入所支援		0	長期入院1	1
就労継続支援B型		0	他施設移行2、利用終了2	4
計		0	5	5

(3) 利用者の疾病の状況

令和5年3月31日現在 (人)

疾病	区分	男	女	計	割合
入所	脳血管障害	9	2	11	29.7%
	脳性マヒ	6	2	8	21.7%
	脊髄損傷	1	0	1	2.7%
	頭部外傷等	4	0	4	10.8%
	脳性小児マヒ	1	1	2	5.4%
	その他	7	4	11	29.7%
	計	28	9	37	100.0%
通所	脳血管障害	2	0	2	15.4%
	脳性マヒ	1	1	2	15.4%
	頭部外傷等	1	0	1	7.7%
	その他	3	5	8	61.5%
	計	7	6	13	100.0%

(4) 利用者の障害の状況

ア 入所利用者

(ア) 障害支援区分の状況

令和5年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
6	5	0	5	13.5%
5	9	3	12	32.4%
4	12	6	18	48.7%
3	2	0	2	5.4%
計	28	9	37	100.0%

(イ) 身体障害の等級

令和5年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	6	2	8	21.6%
2級	12	3	15	40.6%
3級	5	0	5	13.5%
4級以下	2	3	5	13.5%
級なし	3	1	4	10.8%
計	28	9	37	100.0%

(ウ) 療育手帳の区分

令和5年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
A	0	1	1	16.7%
B	1	0	1	16.7%
C	2	2	4	66.6%
計	3	3	6	100.0%

イ 通所利用者

(ア) 身体障害の等級

令和5年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	3	1	4	13.4%
2級	1	2	3	10.0%
3級	1	0	1	3.3%
4級以下	1	0	1	3.3%
等級なし	12	9	21	70.0%
計	18	12	30	100.0%

(イ) 療育手帳の区分

令和5年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
A	1	3	4	21.0%
B	8	3	11	58.0%
C	3	1	4	21.0%
計	12	7	19	100.0%

(ウ) 精神障害の等級

令和5年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	0	0	0	0.0%
2級	1	1	2	66.7%
3級	0	1	1	33.3%
計	1	2	3	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況(通所利用者)

(人)

科目 性別	プリント (印刷科)	フリーメイト (加工科)	キャロット (知的加工科)	計
男	1	5	12	18
女	1	5	6	12
計	2	10	18	30

(2) 短期入所

在宅の障害児（者）のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	47件	154日

(3) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科等の嘱託医師との連携により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断やインフルエンザ予防接種、機能維持トレーニング、摂食嚥下アセスメント及び専門医による指導・助言の機会の設定等を実施した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗いや手指消毒の徹底、毎日の検温実施、施設内の消毒などに努めた。

(人)

区分	科目	内科	外科	整形 外科	脳 外科	皮膚 科	口腔 外科	泌尿 器科	精神科・ 心療内科	眼科・ 耳鼻科	計
		通 院	344	0	125	13	56	7	15	118	9
内 訳	嘱託医	306	0	116	0	0	0	0	110	0	532
	その他	38	0	9	13	56	7	15	8	9	155
入 院		6	0	0	0	0	0	0	1	0	7

(4) 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県及び郡市歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

(人・回)

区 分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		実人数	201	183	204	184	153	180	179	190	130	171	188	171
延べ人数	240	219	238	209	171	212	207	210	148	197	213	195	2,459	
内 訳	外 来	213	193	212	187	155	180	179	193	142	175	184	175	2,188
	入 所	27	26	26	22	16	32	28	17	6	22	29	20	271
全身麻酔治療回数		0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	8
鎮静法治療回数		47	43	40	37	27	31	32	42	28	30	39	39	435

(5) 主な行事の実施状況※新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、実施。

年 月	主 な 行 事 内 容
令和4.4	対面式
5	前期園内レク大会（ボッチャ） 園内消毒 感染症対策訓練（コロナ）
6	防災訓練
7	利用者健康診断 利用者との話し合い 災害伝言ダイヤル
8	夏季大掃除 朝霞市ボランティア体験受入れ 就B体験会
9	防災訓練（夜間想定） ふれあいスポーツ大会
10	向陽祭（事業団50周年行事） 園内消毒 市役所販売
11	インフルエンザ予防接種 救命救急講習（消防署対応） 総合防災訓練
12	利用者との話し合い 冬季大掃除 後期園内レク大会（ボッチャ）
令和5.1	防災訓練
2	利用者健康診断
3	市役所販売 朝霞市福祉避難所合同訓練

(6) ボランティアの受入れ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数	主 な 内 容
598人	作業補助、環境美化、植栽、行事開催等

(7) 実習生の受入れ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、実施。

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	37人	397日
歯科衛生士実習	18人	18日
計	55人	415日

- (8) 見学者の受入れ※新型コロナウイルス感染拡大防止に留意し、実施。

受入延べ人数
43人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや定期の個別面談、意見箱の設置、利用者との話し合い、家族連絡会、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。また、感染症予防、食事と栄養、身体機能の維持等に関する利用者向け研修を開催し、個別の状況に応じた相談受付や健康増進への取組みを進めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保と事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと年1回総合防災訓練を行うとともに、利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 防犯対策として、朝霞警察署員による防犯研修を実施し、さす又・防犯スプレー等の配備と夜間の施錠管理を徹底するとともに、日々の発信等を重視しながら職員の防犯意識の向上に努めた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 新型コロナウイルス感染症対策

事業継続計画(BCP)を作成し、職員に周知するとともに感染症対策に特化した研修や保健所による対策状況のチェックなどの取組みを実施した。

イ 勤務状況のチェック

園長、副園長による巡回及び夜間リーダーによる夜間巡回を行い、勤務状況のチェック・指導を実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」と改善

支援担当会議や危機管理委員会等における情報交換を綿密に行うとともに、朝の連絡会や部署ごとの打合せなどの機会を利用し、職員全員で問題点やその兆候の把握と改善に努めた。

また、「ヒヤリハット」の収集・分析を通じて発生予防策を講じ、事故防止に努めた。

エ 職員との面談と教育

園長、副園長による個別面談を実施するとともに施設内研修を定期的実施し、職員の資質向上を図ることで良質なサービスの提供に努めた。

6 職員の育成

(1) 権利擁護研修

虐待防止・権利擁護に関するWeb研修への参加や施設内研修等を行い、支援者としての資質・意識の向上に努めた。

(2) 感染症研修

新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対策に関する研修等を通じて、正しい理解と対応方法を徹底した。

(3) 救命救急講習会

朝霞消防署から職員の派遣を受け救命救急講習を企画し、心肺蘇生法及びAEDの使用法、窒息時の対応方法等の訓練を実施した。

12 障害者交流センター

各種スポーツや文化・芸術に関する教室等の開催及び障害者スポーツ指導員やボランティアの養成に努めるとともに、地域支援事業として、スポーツや文化・芸術プログラムを県内各地で実施した。

また、福祉体験講座やレクリエーション指導を行い、福祉意識の啓発と福祉活動への参加を促進した。

1 利用者状況

(1) 利用状況

(人)

		延べ利用者数	うち障害者数 (比率)
施設利用	スポーツ施設 (体育館、プール等)	62,642	50,306 (80.3%)
	文化施設 (音楽室、調理研修室等)	41,481	19,602 (47.3%)
	計	104,123 (障害者 69,908 (67.1%)) (介護者等 34,215 (32.9%))	

		延べ参加者数	うち障害者数 (比率)
事業関係	スポーツ事業	4,234	1,952 (46.1%)
	文化・芸術事業	2,670	1,381 (51.7%)
	相談事業	17	4 (23.5%)
	啓発事業	63	30 (47.6%)
	交流事業	0	0 (0.0%)
	計	6,984 (障害者 3,367 (48.2%)) (介護者等 3,617 (51.8%))	

合計 (施設利用 + 事業関係)	111,107 (障害者 73,275 (65.9%)) (介護者等 37,832 (34.1%))
------------------	--

(2) 年齢別利用証交付状況 (人)

	交付件数
0歳～9歳	70
10歳～19歳	107
20歳～29歳	35
30歳～39歳	32
40歳～49歳	49
50歳～59歳	49
60歳以上	61
計	403

(3) 送迎バス利用状況

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	3,368	3,846	4,131	4,269	3,263	4,058	4,509	4,427	3,378	3,044	3,260	4,007	45,560

2 利用者支援

(1) スポーツ事業

主な事業	種目・内容	回数・述べ人数
スポーツ大会・フェスティバル	アーチェリー・陸上・水泳・卓球・STT・サッカー、ダウン症の日のイベント、スポーツフェスティバル、eスポーツ体験	9回 1,203人
スポーツプログラム他	アーチェリー認定会、卓球教室、水泳教室、陸上競技、ハートフルサッカー 他	57回 517人
健康増進プログラム	日常プログラム（職員による運動支援：体育館・屋外・プール）、みんなでスポーツ（利用者同士のスポーツをコーディネート：テニス・バドミントン）	125回 888人
個人対応	希望者に対し職員が個別に球技等の対応をする。	3,770人

(2) 文化・芸術事業

主な事業	種目・内容	回数・述べ人数
文化教室	料理教室、蕎麦打ち、フラワーアレンジメント、盆栽教室、陶芸教室、ハンドメイド教室、わいわいアトリエ（自由な創作活動）	44回 869人
ホール事業	寄席、映画鑑賞会、コンサート（オーボエ、ハンドベル 他）、にこにこおんがくかい、みんなのおんがく、文化・芸術体験イベント、ワークショップ	21回 1,231人
パソコン教室	視覚障害向けiPhone教室、初心者教室、相談会	7回 80人
おもちゃ図書館事業	おもちゃ図書館連絡会交流会	2回 160人

(3) 相談事業

主な事業	内容	回数・述べ人数
体力測定	体力体組成の日	6回 90人
リハビリ相談	理学療法士による相談・助言	7回 74人
栄養相談	保健師による相談・助言	1回 40人
福祉機器相談	福祉用具等に関する相談・助言	12回 19人
健康チェックコーナー	健康チェック、看護師相談、応急処置、血圧測定	3,065人

(4) 啓発事業

主な事業	対象	回数・述べ人数
福祉体験学習等	中学校（特別支援学級）	2校 41人
総合学習	中学校・大学	2校 48人
施設見学受入	障害者団体・一般	22人

(5) 交流事業

納涼祭（7月）の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見合わせた。

(6) 指導者やボランティアの養成

主な事業	内 容	回数・述べ人数
障がい者スポーツ指導員養成	初級障がい者スポーツ指導員養成講習会	2回
	久喜市、さいたま市（交流センター）で実施	46人
ボランティア養成	朗読講座、パソコン、デイジー講座	12回 159人

(7) 地域支援事業

障害のある人が身近な地域でスポーツや文化・芸術などの社会活動に参加できる環境を段階的に整備することを目的に実施した。

主な事業	内 容	回数・述べ人数
パラスポーツ体験会 （県委託事業）	職員派遣によるパラスポーツ啓発活動	12校
	寄居町立桜沢小学校 他	738人
スポーツ・レクリエーション教室	スポーツ指導員派遣 さいたま市・蕨市・川口市・所沢市・吉見町	5地域・9回 205人
創作活動支援	文化・芸術担当職員派遣 さいたま市、朝霞市、入間市、蓮田市の福祉施設で開催	4地域・7回 163人

(8) その他の事業

ア 広報紙の発行

広報紙「わいわい広場」を毎月発行し（部数4,000部）、センター事業に関する情報発信を行った。

イ 作品展示コーナー

障害者等の文化的創作活動について発表する場を提供し、活動意欲の向上を図るとともに、障害者の社会活動を広く県民に知らせることを目的として、絵画・写真等の作品を展示した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、作品展示箇所を縮小して提供した。

ウ サークル育成支援

スポーツ及び文化・芸術サークルの掲示板を設置し、多くの利用者に活動内容を紹介した。

(9) 実習生の受入れ

区 分	実人数	延べ日数
社会福祉士等実習	3人	31日

※例年職場体験実習（未来くるワーク）等の受入れがあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実績がなかった。

3 利用者等のニーズの把握及び対応

定期的なアンケートの実施、投書箱の設置、埼玉県障害者交流センター運営連絡会の開催などを通し、利用者、障害者団体及び地域住民の意向や要望を把握し、サービスの向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 改修工事等の実施

プール排水管修繕、調整池排水ポンプ取替、貸出用会議室等の壁塗装、その他経年劣化による故障機器の修繕等を行った。

また、埼玉県の施工により屋内プール天井の張替工事を行った。

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保と良好な施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員や中央監視業務委託業者による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 防災訓練

防災に対する職員意識の高揚と、非常時における迅速かつ的確な対応を主眼に防災訓練を実施した。

また、安心・安全の観点から防災設備・機器等の取扱訓練を行った。

実施日	訓練内容
4月19日	防災設備取扱訓練（防火設備機器取扱説明・消火訓練等）
11月18日	総合防災訓練（消火訓練・避難訓練・通報訓練）

(2) 危機管理体制の強化

ア 新型コロナウイルス感染症対策及び災害対策

事業継続計画(BCP)を作成し、連絡会や研修等で職員に周知するとともに、感染予防対策や緊急時の連絡訓練などを実施した。

イ 勤務状況のチェック

所長・副所長が不定期に巡回し、勤務状況や施設状態のチェックを実施した。

ウ 問題兆候への「気づき」

会議等、情報交換を綿密に行うとともに、職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

エ 職員との面談と教育

所長が職員との個別面談を実施したほか、接遇や新型コロナウイルス感染症拡大防止等に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 施設外研修

オンライン研修を中心に埼玉県社会福祉協議会等の外部機関が主催する研修会へ参加させ、職員の経験年数やスキルに応じて専門性の向上に努めた。また、研修参加者から月1回の全体会議日に研修内容について報告させ、職員間での情報共有を図った。

(2) 施設内研修

「スマイル・セーフティー・スピーディ」をモットーに、常に利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう、接遇研修や手話研修、心肺蘇生法研修、救急救命講習会など、より実践を通じた研修を行い利用者支援の向上に努めた。

また、各担当内研修を実施し専門的知識の習得やスキルアップを図った。